

「星に導かれて」

～あなたに何が映っていますか～

マタイ2：1～18

■ ヘロデ王

星に示された博士たちが何万 km も離れた場所からイエス様のもとに導かれたという記録。彼らは星の出現から感じ、学び、メシア（救世主・イエス様）が生まれたのではないかという何の根拠もない事実を神様からだと信じました。

博士たちはその星に導かれイエス様の元へ歩き、そして最初の礼拝者となりました。

同じ様にメシアを待ち望んでいたはずのヘロデ王は国を任されていた自分の立場が揺るがされるといふ恐れと不安を感じ本来の正しい道から脱線してしまいます。博士たちからメシア誕生の話聞いたヘロデ王は自分の地位を脅かすかもしれないメシアの命を狙おうと その居場所を教えるように出発前の博士たちに命じるも 彼らは「ヘロデ王のところへ帰るな」という神からのお告げを守りヘロデ王のところへ戻ることはありませんでした。計画を崩され怒りのコントロールができなくなったヘロデ王は後にイエス様が生まれたベツレヘムへ行き その可能性のある2才以下の男子を次々に殺めていきました。

私たちは神様に祈り、願います。そして変化が起こりますが それを信じず、変化が起きてもお過去の自分の価値観が強く恐れや不安をよんでしまいます。

人間は自分の願いが叶わず恐れや不安を感じると怒りになり、その怒りのコントロールを失うことで それまでの全てを壊してしまうのです。

ヘロデ王にとっての恐れはイスラエルの民が願い待ち望んでいたイエス様が生まれた事でこの国が変わり自分の立場がなくなってしまうことだったのです。

■ ①素直な自分を見る

あなたは素直に生きていますか？自分が無力であることを認めると生きることに死ぬことにも意味があることを知り、それを恐れなくなります。

生きることに不安はありませんか？死ぬことが恐いですか？クリスマスは素直に自分の姿を見るときなのです。

■ ②動機を知る

私たちの元気がなくなる時はどんな時でしょうか。私たちの願いは日々変化します。ヘロデ王はいつも人の気持ちを探り決めつけて恐れて相手の行動を先読みしていき、人を信じようともしませんでした。はじめは王として民を守るというすばらしい動機がイエス様の誕生によって自分を守るという動機に変わったのです。私たちが動機を狂わすと何が起きますか。

■ ③決め付けをとる

「あの人はこういう人」「どうせ、こうなる」「きっと、こう思っている」私たちの心の中にある決め付けは時に危険なことがあります。最初は正しくても恐れと不安によって途中で変わってしまうのです。「あの人は私が嫌い」「あの人は私の悪口を言っている」というような決め付けは、あなたの最初の素晴らしい動機を180度変えてしまいます。その決め付けと動機を確認し素直に自分の心を見つめてみましょう。過去に決め付けた悪いレッテルで相手を見ているかぎりその人を認めることも励ますこともできず、その人間関係は終わってしまいます。神様は私たちが同じ方法で失敗しても、もう一度、

いえ何度でも向き合い、ふれあい、語り合ってくれるのです。あなたの動機がずれていたなら戻しましょう。文学や人の知識にたよるとだめになることも聖書を読み自分に絶望して素直になれば自分の決め付けが何なのかがわかります。あなたには本来美しい心があるはずですよ。

キリストの鏡に

私たちはいったい誰の鏡でしょうか？相手が悪い態度をとったら、あなたも同じ態度で返していませんか？私たちはキリストの鏡にならなければいけません。

聖書には「私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行きます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。」(II コリ 3：18)

「愛する者たち。私たちは、今すでに神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていません。しかし、キリストが現れたなら、私たちはキリストに似た者となることがわかっています。なぜならそのとき、私たちはキリストのありのままの姿をみるからです。キリストに対するこの望みをいだく者はみな、キリストが清くあられるように、自分を清くします。」(Iヨハ 3：2～3) とあります。

人は外側で作られるのではなく内側で作られています。

あなたが今うまく関わっていない人を思い浮かべてください。今までの方法論や価値観でその人間関係はうまくいきましたか？視線がずれてないでしょうか。私たちは決断をして自分の間違いを認めていきましょう。決め付けをやめ、愛して向き合ったイエス様を見ていきましょう。私たちの目には何が映っているでしょうか？

イエス様ですか？それともうまく関われないその人ですか？